

四万十川物語

〈送信者〉
財団法人 四万十川財団
TEL : 0880-29-0200
FAX : 0880-29-0201
E-mail: office@shimanto.or.jp
URL: http://www.shimanto.or.jp

日本最後の清流

「四万十川流域重要文化的景観選定記念」首都圏シンポジウム



六本木政策研究大学院大学正門

清流通信読者の皆様こんにちは。3月21日(土)東京港区六本木、政策研究大学院大学に於いて、四万十川流域重要文化的景観選定記念シンポジウムが開催されました。流域では既に4回のシンポジウムが開催されていますが、流域外では初めての“おひろめ”で、この日は春の三連休なか日にもかかわらず、約100名の方々にお集まりいただきました。

14:00 開会。まず、主催の(財)四万十川財団の理事長である前田哲生四万十町長が、開会の挨拶をし、四万十川の概要、選定までの経緯、選定後の地域シンポジウムの開催を通じて住民意識がどのように変わっていったかを報告し、当シンポジウムの開催目的を述べました。

それに続いて、今回の四万十川流域重要文化的景観選定に携わった、政策研究大学院大学篠原修教授と広島大学大学院中越信和教授の基調講演があり、まず篠原教授からは専門の景観政策や景観デザインの視点から『名勝や国立公園と文化的景観との違い、生きている景観—変化と自己同一性、サステナビリティの景観について』と題しての講演が、中越教授からは専門の景観生態学の観点から『流域の自然環境、景観生態学からの評価、日本最後の清流をいかに守るか、四万十川条例、公共事業の環境配慮指針、四万十川は国民の財産等について』の講演がなされました。



基調講演：広島大学中越教授

その後休憩を挟んで、15:45からは『重要文化的景観選定の意義と今後の活用について』と題してのパネルディスカッションが行われ、5人のパネラーがそれぞれの熱い思いを語りました。



文化庁井上調査官



尾崎高知県知事

まず、文化庁文化財部記念物課、井上典子文化財調査官からは、文化庁からの視点で、広域にわたった今回の文化財選定の意義が話され、四万十川総合保全機構理事長の前田哲生四万十町長からは、地方自治体の首長として、地域の視点から見た選定の意義についての話しがなされました。四万十町大正中津川で民宿経営をされる田辺客子氏からは、地域住民代表としての“日常”であった四万十川が選定された喜びと、生活者の視点で改めて感じた四万十川の存在等が話され、農家民宿経営者の立場から文化的景観を活かした交流の可能性や受け入れについての具体的な取り組みの話がされました。また、尾崎正直高知県知事は、「四万十川は高知県の産業振興計画でも大きく位置づけられており、今後の活用に向けて、受け入れ環境の整備、交流促進、地域資源を活用した地域活性化、森林保全等に対する積極的支援をする」旨が話されました。



パネラー；前田四万十町長と流域住民代表田辺客子さん

最後に、四万十川総合保全機構理事長の前田哲生四万十町長から、今後の四万十川保全及び流域の振興に向け、人づくりを中心に受け入れ体制を作りたいという決意表明があり、17:00 全体のプログラムを終了しました。

トピックス

『四万十川をまもろう！バナナ』の売り上げの一部が、四万十川環境保全の為に寄付されました。

3月3日、四万十町役場町長室に於いて、株式会社高知青果市場から『四万十川基金』への寄付金贈呈式が行われました。これは、平成20年2月18日より高知県内の量販店で販売していた『四万十川をまもろう！バナナ』の売り上げの一部が、株式会社高知青果市場及び株式会社ドールを通じて、四万十川環境保全支援の為に寄付されたものです。

*『四万十川をまもろう！バナナ』…ISO14001 認証（環境マネジメント規格）を取得した、フィリピンの海拔300m以上の農園で、環境に配慮しながら栽培され、株式会社ドールと株式会社高知青果市場とが共同開発した商品です。このバナナは、高知県内の量販店で求めいただけます。



『四万十川をまもろう！バナナ』